

# (原題 : Believe Me, If All Those Endearing Young Charms)

讃美歌 467番 「おもえば昔イエス君」

曲 : アイルランドの古い民謡 (1600年代中頃)  
(イングランド/スコットランド説有)

作詞 : トーマス・ムーア

## 永久に愛し君

Translation 川島由美 (ソプラノ)

1. Believe me, if all those endearing young charms,  
Which I gaze on so fondly today,  
Were to change by tomorrow and fleet in my arms,  
Like fairy gifts fading away,  
Thou wouldst still be adored as this moment thou art,  
Let thy loveliness fade as it will.  
And around the dear ruin each wish of my heart  
Would entwine itself verdantly still.

いつかあなたが年老いて  
その若さが消えても  
目に映る姿そのまま  
永久(えいえん)に輝く  
いつまでも変わらない  
目に見えぬ美しさ  
二人重ねた年月が  
愛(いと)しさを募(つの)らす

2. It is not while beauty and youth are thine own,  
And thy cheeks unprofaned by a tear,  
That the fervor and faith of a soul can be known,  
To which time will but make thee more dear;  
No, the heart that has truly loved never forgets,  
But as truly loves on to the close,  
As the sunflower turns to her God when he sets,  
The same look which she turned when he rose.

伸びてゆく蔦絡まって  
大切に守るように  
過ぎ去った年月をそっと  
静かに抱(だ)き寄せる  
いつまでも変わらない  
目に見えぬ美しさ  
ともに見た夜明けはいつか  
黄昏(たそがれ)へと変わる

## 春の日の花と輝く

日本語詞 : 堀内敬三

1. 春の日の花と輝く  
うるわしき姿の  
いつしかにあせてうつろう  
世の冬は来るとも  
わが心は変わる日なく  
おん身をば慕いて  
愛はなお緑いろ濃く

2. 若き日の頬は清らに  
わずらいの影なく  
おん身今あでにうるわし  
されど面(おも)あせても  
わが心は変わる日なく  
おん身をば慕いて  
ひまわりの陽をば恋うごと  
とこしえに思わん

### 1. 信じて欲しい。

### 《英詩原文／直訳》

例え今日とても愛しく見詰めている貴女の、人を惹きつける若い魅力の全てが妖精の贈り物が消えるように、明日には私の腕の中で消え去ろうとも、貴女は今と同じように、なおも賞賛の的であるだろう。

たとえ、愛らしさが消え去って老いた容姿となっても私の心は決して変わらないのです。

私の愛は、なおも若草のように青々と絡みつくように茂っていることを。

2. 美しさ若さが貴女のものである間や、貴女の頬が涙で汚されない間は、私の心からの情熱と信頼は貴女に知られ得ないのです。

月日は貴女をより愛しくさせるだけなのです。

本当に愛した心は決して忘れる事無く、人生の最後迄真に愛し続けるのです。

ひまわりが、太陽の沈む時には太陽に向くように、太陽が昇った時には太陽に向くように、見つめるのと同じなのです。

## ～春の日の花と輝く～(曲:讃美歌467番)

Believe Me If All Those Endearing Young Charms ～春の日の花と輝く～

作詞：トーマス・ムーア 日本語詞：堀内敬三

- |   |   |
|---|---|
| 1 春の日の花と輝く<br>うるわしき姿の<br>いつしかにあせてうつろう<br>世の冬は来るとも<br>わが心は変わる日なく<br>おん身をば慕いて<br>愛はなお緑いろ濃く<br>わが胸に生くべし      | 1 春の日の花と輝く<br>うるわしき姿の<br>いつしかに褪せてうつろう<br>世の冬は来るとも<br>我が心は変わる日なく<br>御身をば慕いて<br>愛はなお緑いろ濃く<br>我が胸に生くべし   |
| 2 若き日の頬は清らに<br>わずらいの影なく<br>おん身今あでにうるわし<br>されどおもあせても<br>わが心は変わる日なく<br>おん身をば慕いて<br>ひまわりの陽をば恋うごと<br>とこしえに思わん | 2 若き日の頬は清らに<br>わずらいの影なく<br>御身いま艶にうるわし<br>されど面褪せても<br>我が心は変わる日なく<br>御身をば慕いて<br>向日葵の陽をば恋うごと<br>とこしえに思わん |

詞：Jemima Thompson Luke 曲：William Davenant

---

おもえばむかしイエスキミ おさなごをあつめ  
ともにあそばせたまいし その日なつかしや  
「われにこよ。おさなき子」と よびまししきみの  
あいの御手にいだかれて みーかおあおがばや

きみは今もみ空にて 子らを召したもう  
いざやともにゆかまほし こいしきみもとに  
すくわれし子らの家は みくににそなわり  
おおくのおさなごつどいて きみをほめたたう

## 讃美歌467番

アイルランド民謡 ～春の日の花と輝く～ について

この歌は、アイルランドの古いメロディに、アイルランドの国民的詩人トーマス・ムーア (Thomas Moore 1779-1852) が歌詞を付けたものだと言われています。英語詞の原題は「Believe me, if all those endearing young charms」あるいは「Believe me」。

メロディの出処に関しては、アイルランド以外に「イングランド説」や「スコットランド説」もあるということです。このメロディは賛美歌にも使われており、更に米国の名門ハーバード大学の校歌にも使われているということです。

我が国では、この清楚なメロディに作曲家・作詞家の堀内敬三 (1897-1983) が日本語詞を付けた「春の日の花と輝く」として有名です。どうやら直訳というわけではないようですが、ムーアの本詩のコンセプトを損なうことなく、堀内氏らしい、ロマンティックかつ格調高い日本語詞が付けられました。

「男性が愛する女性に永遠 (とわ) に変わらぬ愛を誓う」というムーアの本詩のコンセプトは堀内氏の日本語詞でも同じですね。

「春の日の花と輝く」は我が国の音楽の教科書にも採用され、私も高校一年の時に音楽の授業でこの曲を歌いました。以来、私にとって思い出の強い歌の一つになっています。